

教育研究所だより



No.241 令和6年12月20日 【発行者】守山市教育研究所 所長 脇阪 久徳
守山市勝部三丁目9番1号(守山市生涯学習・教育研究センター 愛称:エルセンター 3階)
TEL:077-583-4217 FAX:077-583-4237
E-mail:kyoikukenkyu@city.moriyama.lg.jp
HP:http://www.city.moriyama.lg.jp/kyoikukenkyu_index.html

2学期の研修報告



○第3回守山市初任者研修

令和6年11月19日(火)、第3回守山市初任者研修を実施しました。
午前は、立入が丘小学校 前田 健汰 教諭による算数科の授業を参観し、授業研究会を行いました。「本時の目標に迫る授業実践であったか」という視点で、成果と課題、改善策をグループで話し合ったり、学校教育課 秋口 裕貴 指導主事から授業づくりのポイントについて指導助言をいただいたりして、教科指導や支援のあり方の知見を深めることができました。



午後は、保育園・幼稚園・こども園所属の初任者も参加し、大垣女子短期大学 川島 民子教授より、「特別支援教育のあり方」についてのご講義をいただきました。「困った子ども」ではなく「困っている子ども」と捉えることで支援の仕方、背景を考える見え方が変わることを学びました。また、グループでインシデントプロセス法を使って支援の仕方を考え、子どもたちの背景を探るためにはどのような視点が大事か実践的に学びました。

【初任者の感想(一部抜粋)】

- ・笑顔で子どもの前に立つことがクラスの温かい雰囲気につながっていると思った。間違えても認めていく姿を子どもが感じられるような声掛けをもっと大事にしていきたい。
- ・「〇〇しなさい」という言葉ではなく、「〇〇したい」と子どもが思う手立てが必要であり、導入や授業の流れを工夫していきたい。
- ・インシデントプロセス法をグループでやってみると、子どもの行動から様々な原因や背景が考えられ、困った子どもは困っている子どもだということを実感しました。

○ステップアップ研修・2年次研修・ボトムアップ研修

3学期も研修で学んだことを活かして、授業づくり、学級づくり、子どもたちとの関係づくり等に励んでいただきたいと思います。授業を提供して下さった先生方、ありがとうございました。



- ・他の人の実践を知ったり、自分の実践を話したりすることで、これからやってみようと思ったり、自分の考えや思いも整理したりすることができました。
- ・早く帰るための工夫を共有し、まだまだ自分にやれることがあると思ったので、頑張りたい。
- ・自分が考えていることや悩みを交流し、一人ではないと改めて思うことができた。

第2回 2年次研修 令和6年10月11日(金)
○学力差への対応 ○早く帰るために心がけていること



第4回ステップアップ研修 B

令和6年10月16日(水)

(守山南中学校)

○先輩の授業から学ぶ

守山南中学校 3年2組

吉岡 真凛 教諭(道徳科)

・主題: 本当の思いやり

・教材: 電車の中で



- ・吉岡先生の「生徒にこうなってほしい」という想いを知り、自分も熱い想いをもって日々子どもたちと関わっていこうと思いました。
- ・生徒が積極的に意見を発表ようになるためには、生徒自身が自分の意見を聴いてもらえているという安心感を与えることが大切だということだった。拍手やペア活動など工夫次第でそういう雰囲気作りができるので、明日からの実践に活かしていきたい。

吉岡先生の授業からの学び

- ・本音が引き出せるよう、共感したり寄り添ったりして、さらに追質問して子どもたちが言語化できないところに迫れるようにしている。
- ・ペアで指名すること。発表する前に意見を交流し、安心して発表できるようにしている。1時間の授業の中ですべてのペアを指名することができるようにしている。
- ・事前アンケートを授業の導入で取り入れている。 ・向上心をもって授業づくりをしている。

- ・子ども同士での教え合いや子どもの悩んでいる点を違うグループに聞きに行かせるなどの子ども同士のつながりがとても大切だと感じました。
- ・机間指導の回数と何回目子どもたちの何を見るのかを明確にすることが大切だと気づいた。
- ・主体的に学ぶ姿勢をつくるための環境づくりというものをこれからの課題や目標にしていきたいと思いました。

第4回ステップアップ研修 A

令和6年11月5日(火)

(中洲小学校)

○先輩の授業から学ぶ

中洲小学校 4年 A 組

岸本 和旭 教諭(国語科)

・単元名

「わたしは、こう推理した! つながりを見つけて読み、『友情のかべ新聞』の謎を解き明かすリーフレットを作成しよう!」



岸本先生の授業からの学び

- ・交流の仕方の動画やノートの取り方、ゴールになるリーフレットなどのモデルをクラスルームにも提示しておく。
- ・誰が今何をしているのかわかるように掲示物を工夫し、ネームプレートを利用して一人ひとりの状況を把握できるようにしている。
- ・机間指導は3回と考えている。①することがわかっているか確認 ②学習が順調に進んでいるか、悩んでいる時は子ども同士をつなげる ③意図的指名のため

第4回 ボトムアップ研修

令和6年11月21日(木)

○実践報告

・「めたふ」の授業づくり

・夏期選択研修で学んだことを活かした実践について

【教育相談】

【学級づくり】

【道徳】

【特別支援教育】



- ・校種も選択研修も異なる班員との交流で、参加することができなかった研修の内容や小学校の授業の様子を知ることができてよかったです。
- ・授業力改善に力を入れたいと思っていたのでめたふの実践ができたことは、これからの授業内での学びを深める意味で大いに役立つものになりそうです。
- ・この研修を通じて守山市で大切と考えている教育を知ることができました。今までやってきたことに加え、新たな力をつけてより教員として成長したいと思います。

幼児教育研修講座

K-3

11/26(火)

「就学前に育みたい力について」
～通級指導教室の授業から見てくるもの～

物部小学校 足立 ゆうか 教諭

○実際に園で特に問題のなかった子どもがLDだったことがあり、どうしたら気づけたのだろうとずっと思っていたので、今日のお話で気づくポイントはたくさんあるのだとわかり、嬉しかったです。気づききっかけを自分から保育の中に仕掛けていくことが大事だなと感じました。これを知っているのと知らないのでは大きな違いになると思ったので、園に帰ったら共有したいと思います。

○通級指導教室で実際にしているゲームをした後に、どんなところを見ているのかを聞くことができ、自分が想像している以上にたくさんのことを見ているということが勉強になりました。また、言葉を使ったあそびもたくさん教えていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。



「教育に関する調査研究」 第2回研究協力員会開催報告

★テーマ 新たな不登校を生まない学校における視点を考える

★研究組織

(敬称略)

指導講師	野田 正人 (立命館大学大学院人間科学科 特任教授)
学校教育課	岡田 伊津子 (課長)
教育支援センター	水野 恵 (こども支援コーディネーター)
教育研究所	脇阪 久徳 (所長) 小井 直子 (係長) 木村 有貴 (研究員)

★内容

○1学期の調査報告、今後の調査の方向性、指導助言

★指導助言から

- ・SC、SSWとの面談をすすめることや、別室すすめること、放課後登校をすすめることは、プランニングであり、これが最善だというアセスメントがない場合に、それらをすすめることで、逆にマイナスになったり、「結構です」と断られたりすることは、アセスメントが十分ではないと言える。
- ・先生から見たときに、「他にも勉強がわからない子がいるから・・・」と正常化バイアスが働き、「やはり普通だ」と扱ってしまうが、違和感をもった時点でSCやSSW、特別支援教育コーディネーターなどに相談して、アセスメントをすることが大切。先生方ももつ違和感を大事にしてほしい。
- ・学校で勉強すること自体、ストレスをかけていることであるが、ストレスは、かけてはいけないわけではなく、正しく耐えられるストレス、あるいはリカバリーできるストレスにしてあげなければいけない。そういう意味で、ストライクゾーンの狭いこどもが増えていることから、一緒にストライクゾーンをきちんと探してあげないといけない。また、どの辺りにこどもにとってのしんどさが出てきやすいかっていうところを考えることはすごく意味のあること。
- ・発達を疑うとすると、小学校では担任との相性とか、友達関係とか、他の要因が入ってくるので、就学前の情報の方が発達の特徴がよく出ている。
- ・学校にはアセスメントのためにまず情報整理して、それを合わせるという文化がない。情報を集めるのはアセスメントのためであり、アセスメントは何のためかと言われれば効果的な支援の打率を上げるためである。





第12回生徒会サミットを開催しました



令和6年12月7日(土)、市立守山中学校に市内5中学校(県立守山中学校は都合により欠席)の生徒代表者が一堂に会し、第12回生徒会サミットを開催しました。

今回は、新生徒会として発足したばかりのフレッシュなメンバーが集いました。

今回のサミットの目標は、「相互理解を深めるとともに、これからの1年間、生徒会サミットとして何を目標に取り組んでいくのか」の合意形成を図ることです。

まず、「先輩に学ぶ」と題し、元守山南中学校生徒会長で現在は膳所高校1年生 宮原結大さんから、体験談を聞きました。中学校時代もトルコ大地震の駅前募金活動などをはじめ、いろいろな取組で先頭に立ち活動していた宮原さん。高校では3つの部活動を掛け持ちしているとのことでした。宮原さんからは、勉強と部活動、そして、生徒会活動を両立するためには「1日のやるべきことを明確にする」ことを意識していくことが大切と、お話いただきました。参加した生徒からも「身近な目標となる先輩の話は、とても印象深かった」と決意と意欲を高める時間となりました



次に、「新聞紙じゃんけん」など当番校の明富中学校生徒会による工夫を凝らしたアイスブレイクが行われました。開会行事から緊張していた各校からの参加者でしたが、ようやくこのアイスブレイクで笑顔が見え始めました。その後の各校からメンバー紹介や活動報告ではバク転、けん玉、似顔絵など個性豊かな自己紹介があり、すっかり緊張が和らぎました。

そして、グループに分かれていよいよ今日の本題である、最上位目標について討議が行われました。事前に

「自分としてはどんな最上位目標が良いと考えるのか」という宿題が出されていたこともあり、どのグループも活発に話し合いがなされました。

全体協議でも和気あいあいとした雰囲気の中、活発な議論が行われました。特に、総合司会を務めた明富中学校の大橋君と猪飼君は、場に応じたアドリブで会場を盛り上げながらも、論点を絞っていくなど素晴らしいファシリテーション能力を発揮していました。



今回のサミットにも、学校教育課長、青少年育成市民会議の方にもご参加いただきありがとうございました。子どもたちにとって、これからの活動意欲を高めるたいへん充実した時間となりました。また、会場校の市立守山中学校生徒会の皆さんや、当日の運営を担った明富中学校生徒会の皆さんのホスピタリティあふれる対応は、大変素晴らしいものがありました。彼らの活動が今回のサミットを支えていました。ありがとうございました。

これからの1年間、市内6中学校が協力してこれらの取組を推進してくれることを期待しています。

※合意形成事項および今後の活動について

(1) 最上位目標 「Enjoy! ~灯そう笑顔のイルミネーション~」

この目標の「Enjoy」には、みんなが協力すること、元気になること、自然を大切にしていくこと、健康であることなど、それらを達成していくことはみんなの幸せに繋がり、みんなの Enjoy となる。また、「灯そう笑顔のイルミネーション」には、みんなが笑顔になると、それがイルミネーションのように輝くこと、また、「灯す」には守山のホテルのようにやさしく灯ること、そんな思いが込められています。

(2) 今後の活動について

- ・最上位目標を達成するために、どのような活動が私たちにできるのか、具体的活動を考え各校で取り組んでいく。
- ・3学期の始業式等で、生徒会サミットの活動を各校で周知する。
- ・次回のサミット(来年度6月実施予定)では、目標を達成するために行った各校の実践活動をもとに、生徒会サミットとして活動していくことを決定する。